

「差別ない世界」願い描く

つなぐ

神奈川と共生

外国ルーツの子どもたち②



2025年夏、小学6年のミコは教室で給食の配膳の列に並んでいた。「日本人が先なんだよ」。

ミコのルーツを知るクラスメートが列の先方に割って入った。

怒りでいっぱいになり、言葉が出なくなった。苦勞して育ててくれたフィリピン出身の母親の顔が思い浮かんだ。

今春に小学校を卒業したミコ(13)は、大人顔負けの語り口で話す少年だ。絵を描くのも得意。ただ、字を読むことも書くことも、なかなかできなかった。自分の名前を初めて書けるようになったのは、小学2年の時だった。

ミコは日本で生まれ、フィリピン出身の母リンさん(54)と2人で暮らす。日本人の父親は1歳のころに病気で亡くなった。小学校に入るころ、

「日本人が先」母の顔が浮かび、我慢

な気持ちになった。それでも、自宅ではリンさんが買ってきた50音表を見ながらお風呂に入り、寝る前にも音読するなど努力した。

2年の時、ある日ふと「今なら書けそうだ」と思った。鉛筆を握ると、小さい字で自分の名前を初めて書くことができた。リンさんは涙を流して喜んだ。その後も字を書く練習を続け、少しずつ漢字も手本を見ながら書けるようになった。

ミコは「お母さんを安心させることが目標」と言う。育児だけでなく、経済面や健康面で困難を抱える姿を見ていたから

「もし私がいなくなっても、一人でも生きてほしい。リンさんは涙を流して喜んだ。その後も字を書く練習を続け、少しずつ漢字も手本を見ながら書けるようになった。

ミコは「お母さんを安心させることが目標」と言う。育児だけでなく、経済面や健康面で困難を抱える姿を見ていたから

「もし私がいなくなっても、一人でも生きてほしい。リンさんは涙を流して喜んだ。その後も字を書く練習を続け、少しずつ漢字も手本を見ながら書けるようになった。

ミコは「お母さんを安心させることが目標」と言う。育児だけでなく、経済面や健康面で困難を抱える姿を見ていたから

「もし私がいなくなっても、一人でも生きてほしい。リンさんは涙を流して喜んだ。その後も字を書く練習を続け、少しずつ漢字も手本を見ながら書けるようになった。

ミコは「お母さんを安心させることが目標」と言う。育児だけでなく、経済面や健康面で困難を抱える姿を見ていたから

「もし私がいなくなっても、一人でも生きてほしい。リンさんは涙を流して喜んだ。その後も字を書く練習を続け、少しずつ漢字も手本を見ながら書けるようになった。

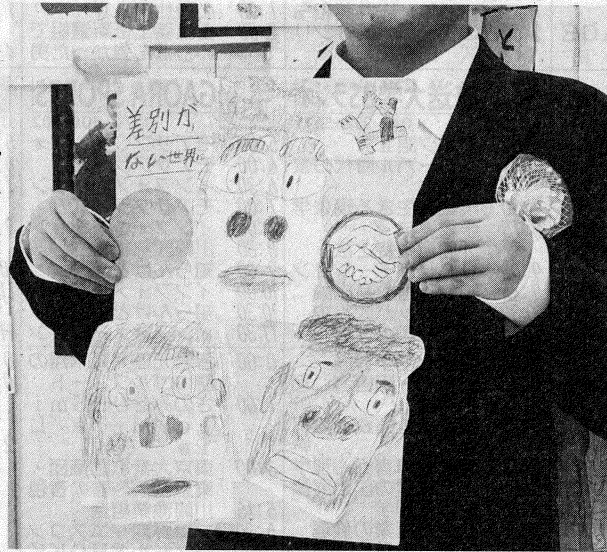
ミコは「お母さんを安心させることが目標」と言う。育児だけでなく、経済面や健康面で困難を抱える姿を見ていたから

「もし私がいなくなっても、一人でも生きてほしい。リンさんは涙を流して喜んだ。その後も字を書く練習を続け、少しずつ漢字も手本を見ながら書けるようになった。

ミコは「お母さんを安心させることが目標」と言う。育児だけでなく、経済面や健康面で困難を抱える姿を見ていたから

「もし私がいなくなっても、一人でも生きてほしい。リンさんは涙を流して喜んだ。その後も字を書く練習を続け、少しずつ漢字も手本を見ながら書けるようになった。

ミコは「お母さんを安心させることが目標」と言う。育児だけでなく、経済面や健康面で困難を抱える姿を見ていたから



月、自宅にいた時、肌の色が違う人々の絵を描いてみた。「差別のない世界に」という文字も自分で書き添えた。「日本ってたくさんの国の人が住んでいる。良い人も悪い人もいる。フィリピンの人がみんな悪いと思わないでほしい」と、制作の意図を語る。

学校のクラスでも、意見を発表する機会に「差別のない小学校にしよう」と訴えた。

この出来事を聞いた竹川さんは、国政選挙で「日本人ファースト」を掲げる政党が躍進したことが頭に浮かんだ。「そうした言葉が子どもたちにも影響するようになったのかも知れない」と驚いたという。

ミコは4月、地元の公立中学に進み、個別支援級に通い始めた。放課後は美術部で活動し、信愛塾にも顔を出す。

忙しいながらも充実した生活を送る様子に、竹川さんは目を細める。「伸び伸びと、すごく良い子に育ってくれた」。7年目を迎える親子への支援を振り返りながら、しみじみと語った。 〓つづく

ミコは4月、地元の公立中学に進み、個別支援級に通い始めた。放課後は美術部で活動し、信愛塾にも顔を出す。

忙しいながらも充実した生活を送る様子に、竹川さんは目を細める。「伸び伸びと、すごく良い子に育ってくれた」。7年目を迎える親子への支援を振り返りながら、しみじみと語った。 〓つづく

ミコは4月、地元の公立中学に進み、個別支援級に通い始めた。放課後は美術部で活動し、信愛塾にも顔を出す。

忙しいながらも充実した生活を送る様子に、竹川さんは目を細める。「伸び伸びと、すごく良い子に育ってくれた」。7年目を迎える親子への支援を振り返りながら、しみじみと語った。 〓つづく

ミコは4月、地元の公立中学に進み、個別支援級に通い始めた。放課後は美術部で活動し、信愛塾にも顔を出す。

忙しいながらも充実した生活を送る様子に、竹川さんは目を細める。「伸び伸びと、すごく良い子に育ってくれた」。7年目を迎える親子への支援を振り返りながら、しみじみと語った。 〓つづく

ミコは4月、地元の公立中学に進み、個別支援級に通い始めた。放課後は美術部で活動し、信愛塾にも顔を出す。

忙しいながらも充実した生活を送る様子に、竹川さんは目を細める。「伸び伸びと、すごく良い子に育ってくれた」。7年目を迎える親子への支援を振り返りながら、しみじみと語った。 〓つづく

ミコは4月、地元の公立中学に進み、個別支援級に通い始めた。放課後は美術部で活動し、信愛塾にも顔を出す。

忙しいながらも充実した生活を送る様子に、竹川さんは目を細める。「伸び伸びと、すごく良い子に育ってくれた」。7年目を迎える親子への支援を振り返りながら、しみじみと語った。 〓つづく